

| | | | |
|--|---|--|--------------|
| 学期 / Semester | 2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester | 曜日・校時 / Day・Period | 火 / Tue 2 |
| 開講期間 / Class period | 2016/09/30 ~ 2017/01/24 | | |
| 必修選択 / Required/Elective class | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas) | 2.0/2.0/2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20160586017301 | 科目番号 / Subject code | 05860173 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering Code | GEMA 13311_005 | | |
| 授業科目名 / Subject | 国際社会を理解するための多様な視点 (東西文化交流の歴史) / History of Cultural Communication between West and East | | |
| 編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus | 山下 龍 / Yamashita Noboru, 松島 大輔 / Matsushima Daisuke | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject | 山下 龍 / Yamashita Noboru | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s) | 山下 龍 / Yamashita Noboru | | |
| 科目分類 / Class type | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Class Form | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | 教養教育B棟34 / RoomB-34 | | |
| 対象学生 (クラス等) / Object Student | '教育学部、経済学部、薬学部、水産学部、多文化社会学部 | | |
| 担当教員Eメールアドレス / E-mail address | noboruy@nagasaki-u.ac.jp | | |
| 担当教員研究室 / Laboratory | '言語教育研究センター | | |
| 担当教員TEL / Tel | 095-819-2080 | | |
| 担当教員オフィスアワー / Office hours | '火 14:30 ~ 16:00 | | |
| 授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives | 'この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)を掘り下げ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成を図ろうとするものです。講義では自主性、思考力、判断力および表現力を尊重します。 | | |
| 授業到達目標 / Goal | '長崎を中心とする海外交渉の歴史の概略を理解し、異文化交流における接点における摩擦や解決努力の苦勞、双方向への理解の浸透といった国際的な感覚の習得を目標とします。 | | |
| 授業方法 (学習指導法) / Method | '歴史資料や視聴覚教材を用いて東西文化の交流の諸相を解説します。 | | |
| 授業内容 / Class outline / Con | 別途記載 | | |
| キーワード / Key word | '東西文化交流、日欧交渉史 長崎学 知性史 異文化接触 | | |
| 教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book | '特になし | | |
| 成績評価の方法・基準等 / Evaluation | '毎回配布される出席確認を含めたレポート評価による。 | | |
| 受講要件 (履修条件) / Requirements | '特になし | | |
| アクセシビリティ / Accessibility | 長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp | | |
| 備考 (URL) / Remarks (URL) | | | |
| 学生へのメッセージ / Message for students | '関心のあるテーマに向けて自分で調査する習慣を身につけて欲しい。 | | |
| 授業計画詳細 / Course Schedule | | | |
| 回(日時) / Time (date and time) | 授業内容 / Contents | | |
| 第1回 | '東西文化交流の歴史とグローバル社会 < 姫野順一 > | | |
| 第2回 | '西の都平戸、国際貿易とキリスト教 < 山下龍 > | | |
| 第3回 | 'オランダとポルトガルがもたらしたもの < 鈴木英明 > | | |
| 第4回 | '華人・華僑と長崎 < 鈴木英明 > | | |
| 第5回 | 'オランダと長崎 < 姫野順一 > | | |
| 第6回 | '鎖国時代のアジアのなかの長崎 < 姫野順一 > | | |
| 第7回 | '寛政の改革以後の日中貿易と毛氈の技術導入 < 砂崎素子 > | | |
| 第8回 | 'シーボルトの眼! 川原慶賀 < 原田博二 > | | |
| 第9回 | '文化交流と外国人居留地の生誕 < 市川智生 > | | |
| 第10回 | '文化交流と外国人居留地の活動 < 市川智生 > | | |
| 第11回 | '寛政の改革以後の日蘭貿易と毛織技術 < 砂崎素子 > | | |
| 第12回 | '日本とアラブの交流 < 源島福己 > | | |
| 第13回 | '近世後期の唐人貿易の諸問題と日本側の対外姿勢 < 砂崎素子 > | | |

| | |
|------|----------------------------|
| 第14回 | '写真術の伝来と外国人写真家の来航 < 姫野順一 > |
| 第15回 | '長崎の世界遺産とグローバル社会 < 姫野順一 > |
| 第16回 | '予備日 |

| | | | |
|--|--|--|--------------|
| 学期 / Semester | 2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester | 曜日・校時 / Day・Period | 月 / Mon 2 |
| 開講期間 / Class period | 2016/09/30 ~ 2017/01/30 | | |
| 必修選択 / Required/Elective class | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas) | 2.0/2.0/2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20160586017701 | 科目番号 / Subject code | 05860177 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering Code | GEMA 13321_005 | | |
| 授業科目名 / Subject | 国際社会を理解するための多様な視点 (国際的視点に立った法と政治) / Law and policy from the global viewpoint | | |
| 編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus | 嶋野 武志 / Shimano Takeshi, 松島 大輔 / Matsushima Daisuke | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject | 嶋野 武志 / Shimano Takeshi | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s) | 嶋野 武志 / Shimano Takeshi | | |
| 科目分類 / Class type | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Class Form | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | 教養教育B棟34 / RoomB-34 | | |
| 対象学生 (クラス等) / Object Student | 教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部 | | |
| 担当教員Eメールアドレス / E-mail address | shimano@nagasaki-u.ac.jp | | |
| 担当教員研究室 / Laboratory | 産学官連携戦略本部 | | |
| 担当教員TEL / Tel | 095-819-2229 | | |
| 担当教員オフィスアワー / Office hours | 11:00 ~ 17:00 | | |
| 授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives | <p>人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければならない。しかも、国際的交流が飛躍的に増加すると考えられる21世紀においては、自らが生活する国・地域の法のみならず、異なる歴史・文化を有する国・地域の法についても理解できる能力を養っておくことが重要である。</p> <p>この科目においては、国際法に関わる交渉に参加した経験を有する教員の指導の下、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、さらには国際社会を規律する国際法を概観し、法の多様性を理解するとともに、そうした法を生み出す場である政治の現実についても学ぶことを通じ、グローバル化が進展する世界において必要とされる人間の多様性を理解することのできる能力を養う。</p> | | |
| 授業到達目標 / Goal | 法や政治の問題を考えることを通じて、法、さらには人間の多様性を理解しうる能力を身に付けることにより、そうした多様性を前提としながらも、社会を安定的に営んでいくために必要な「利害調整能力」の基礎を確立する。 | | |
| 授業方法 (学習指導法) / Method | 法や政治の問題を考えるのに際しては、まず基本となる知識が不可欠なため、基本的には講義形式を採用するが、法や政治に関わる問題が如何に身近なものであるかを実感してもらうとともに、現実の問題に対して、如何に多様な解決方法があるのかを知ってもらうために、具体的な例を討議するグループディスカッションも行うこととする。 | | |
| 授業内容 / Class outline / Con | 可能な限り関連時事問題の解説を行うので、以下の予定を変更する可能性があることに留意されたい。 また、受講生の人数を踏まえたグループディスカッションの導入も検討するため、その関連での変更もありうることを申し添える。 | | |
| キーワード / Key word | 法、法の背景としての歴史・文化、法を生み出す政治、利害調整、多様性 | | |
| 教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book | 特になし。(但し、授業開始後、必要に応じて指定することはある。) | | |
| 成績評価の方法・基準等 / Evaluation | レポート及び試験を通じて行う。 法、さらには人間の多様性を理解する態度が見られるかどうかを特に評価する。 | | |
| 受講要件 (履修条件) / Requirements | 特になし。(但し、我が国の法が重要な題材となるため、日本語を解せることが望ましい。) | | |
| アクセシビリティ / Accessibility | <p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp</p> | | |
| 備考 (URL) / Remarks (URL) | | | |
| 学生へのメッセージ / Message for students | 特になし。 | | |
| 授業計画詳細 / Course Schedule | | | |
| 回 (日時) / Time (date and time) | 授業内容 / Contents | | |
| 第1回 | 導入部分として、そもそも法とは何かを学ぶ。 まず我々の生活や社会のどのようなところに法が登場するのか、そうした法はどのように形成されるのかを学ぶ。 | | |
| 第2回 | 法についての様々な思想や歴史を学ぶ。 これにより、法とは誰かから与えられるものではなく、社会が生み出していくものであることを理解する。 | | |

| | |
|------|---|
| 第3回 | 民事に関する法について学ぶ。(民事法1) まず財産法について、身近な取引や契約、交通事故に関わる損害賠償などの事例について、どのような問題がどのように解決されているかを学ぶ。 |
| 第4回 | 民事に関する法について学ぶ。(民事法2) ここでは、家族法について、結婚・離婚、相続などの事例を通じて、どのような問題について、どのような解決が行われているかを学ぶ。 |
| 第5回 | 次に企業活動に関する法について学ぶ。 ここでは、企業とは何か、企業は誰によってどのように作られるのか、その取引においてどのような問題が生じるのかについて学ぶ。 |
| 第6回 | 刑事に関する法について学ぶ。 人が罰せられるのはどのような場合か、何故罰せられるのか、罰する場合の手続はどのようになっているのかなどを知ることにより、刑事法の基礎を学ぶ。 |
| 第7回 | 国家に関する法である憲法・行政法を学ぶ。 ここでは、国家の運営、国家と国民の関係などについて学ぶ。 |
| 第8回 | その他の法について学ぶ。 労働法や環境法など、現代において重要性を増している分野の法を紹介する。 |
| 第9回 | 第7回が終了した時点でレポートを作成し、そのうちのいくつかを題材として議論を行う。 これにより、国内法に関わる問題であっても、極めて多様な考え方が成り立ちうることをあらためて実感する。 |
| 第10回 | 次に、英米法やヨーロッパ法など、代表的な外国法を概観する。これにより、歴史や文化が異なる国・地域では、類似の問題であっても、異なる解決が行われることを理解する。 |
| 第11回 | 国際社会を規律する国際法について学ぶ。 国内法と国際法の共通する部分と、紛争解決システムなどの異なる部分を理解する。 |
| 第12回 | 法に対する一定の理解を前提に、法を生み出す政治の現実を学ぶ。 まず身近なところとして、国内法について、現実に如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。 |
| 第13回 | ここでは、我が国の政治史を概観し、法を生み出す政治における「利害調整」のあり方も時代により異なることを理解し、法、さらには人間の多様性を学ぶ。 |
| 第14回 | 国際法を生み出す国際政治の現実を学ぶ。 特に、各国の利害が正面から衝突する国際通商交渉を例にとり、国際的な場で如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。 |
| 第15回 | 国際政治についても、時代により、地域により、様々な「利害調整」が行われてきたことを知り、法、さらには人間の多様性を学ぶ。 |
| 第16回 | 試験を行う。 |

| | | | |
|--|---|--|--------------|
| 学期 / Semester | 2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester | 曜日・校時 / Day・Period | 火 / Tue 1 |
| 開講期間 / Class period | 2016/09/30 ~ 2017/01/24 | | |
| 必修選択 / Required/Elective class | 選択 / elective | 単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas) | 2.0/2.0/2.0 |
| 時間割コード / Time schedule code | 20160586027901 | 科目番号 / Subject code | 05860279 |
| 科目ナンバリングコード / Numbering Code | | | |
| 授業科目名 / Subject | 国際社会を理解するための多様な視点 (グローバル人材へのリテラシー~グローバル人材2.0~) / Global Literacy - Passage to the Global Innovator (Global HRD 2.0) | | |
| 編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus | 松島 大輔 / Matsushima Daisuke | | |
| 授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject | 松島 大輔 / Matsushima Daisuke | | |
| 授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s) | 松島 大輔 / Matsushima Daisuke | | |
| 科目分類 / Class type | 全学モジュール 科目 | | |
| 対象年次 / Year | 1, 2, 3, 4 | 講義形態 / Class Form | 講義 / Lecture |
| 教室 / Class room | 教養教育B棟34 / RoomB-34 | | |
| 対象学生 (クラス等) / Object Student | モジュール科目履修許可を受けたもの | | |
| 担当教員Eメールアドレス / E-mail address | daisuke-matsushima@nagasaki-u.ac.jp | | |
| 担当教員研究室 / Laboratory | 国際教育リエゾン機構教員研究室 (B棟2階) | | |
| 担当教員TEL / Tel | 095-819-2454 | | |
| 担当教員オフィスアワー / Office hours | 火曜日12:50-14:20 (但し、面談を希望する学生は事前にメール等でアポイントメントを取ること) | | |
| 授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives | グローバル人材について明確な定義を与え、その人材に向けての涵養方法を学びます。方法論と実践を加味した授業になります。 | | |
| 授業到達目標 / Goal | グローバル人材とはどのような人物像か?そしてそのトレーニング方法を学ぶとともに、初級編としてトレーニングを行います。 | | |
| 授業方法 (学習指導法) / Method | 発表や批評を通じた全人的なトレーニングを目指します | | |
| 授業内容 / Class outline / Con | 第1回 ガイダンス 諸君の思うグローバル人材とは?グループ分け12チーム (連絡体制とリーダー) 第2回 グローバル人材の定義 グローバル人材のトレーニング グループ発表に向けて 1) 地域課題、2) その原因と解決方法、3) 日本との関係性 第3回 グループ発表1: 東アジア (2、3、4要約、5、6、7質問、8、9、10反論、11、12再反論)、 第4回 グループ発表2: 東南アジア (以下ローテーション) 第5回 グループ発表3: オセアニア 第6回 グループ発表4: 南アジア 第7回 グループ発表5: 中央アジア 第8回 グループ発表6: 中東 第9回 グループ発表7: アフリカ 第10回 グループ発表8: 西ヨーロッパ 第11回 グループ発表9: 東ヨーロッパ 第12回 グループ発表10: 旧ソ連 第13回 グループ発表11: 北米 第14回 グループ発表12: 中南米 第15回 まとめ グローバル人材2.0への道 | | |
| キーワード / Key word | グローバル人材2.0、グローバルイノベーター、トランスナショナルな人材、イノベーションのジレンマ | | |
| 教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book | なし | | |
| 成績評価の方法・基準等 / Evaluation | 各グループ発表後に批評を踏まえたレポートを各自提出 (40%)、参加 (10%)、定期試験としてグローバル人材習熟度テスト (40%) | | |
| 受講要件 (履修条件) / Requirements | 事前に許可を受けたもの | | |
| アクセシビリティ / Accessibility | 長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp | | |
| 備考 (URL) / Remarks (URL) | | | |
| 学生へのメッセージ / Message for students | 将来、グローバルに活躍するみなさんに、その積極的なグローバル人材のレゾナードルを提供するとともに、今後の学習方法を指南します。一億総グローバル人材に向けて知的筋肉を鍛えましょう! | | |